

ホルター心電図



24時間（まる1日）分の心電図を記録して、脈の乱れ具合や心臓に異常がないかを調べる検査です。

Q 何のために検査をするのですか？

A 胸になんらかの症状があったり、心臓の健康診断でひっかかった際に、その症状が心臓が原因でおこっているのか、不整脈の場合は種類と頻度についてみます。

Q 身体への負担はありますか？

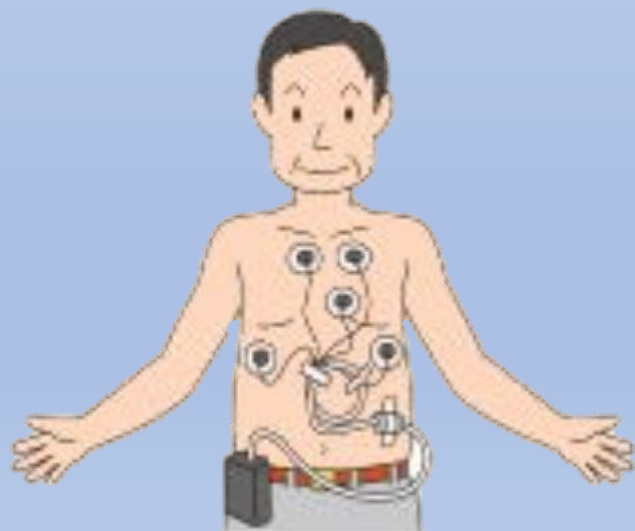
A まる1日の記録になりますが、原理は心電図検査と同じなので、電気が身体に流れたり身体を傷つける心配はありません。

Q 何がわかりますか？

A 脈の乱れ具合の不整脈や肥大、心筋梗塞などに関するいろいろなことがわかります。また記録時間が長いので、夜に寝ている時の変化もわかります。

Q 検査時間はどのくらいかかりますか？

A 専用の機械を取り付けるのに10分ほどかかります。記録は24時間でまる1日になります。翌日に取り外しに来院していただきます。



Q どのように検査するのですか？

A 胸が見えるようにしていただき、胸に電極のシールを付けます。電極シールからそれぞれ心電図のコードが出ていますので、それらを束ねておなかに固定します。記録する機械はベルトなどで固定します。検査中はお風呂やシャワーなどはできません。何か症状がありましたら、機械に付属のボタンを押してください。

ホルター心電図で分かること

「ホルター」という名前は、24時間心電図記録法の発案者であるHolter（ホルター）博士の名前に由来して付いています。小型・軽量の記録装置（図1）を腰に取り付け固定（ホールド）していることから、「ホルダー」と誤解されがちですが、これは正式名ではありません。

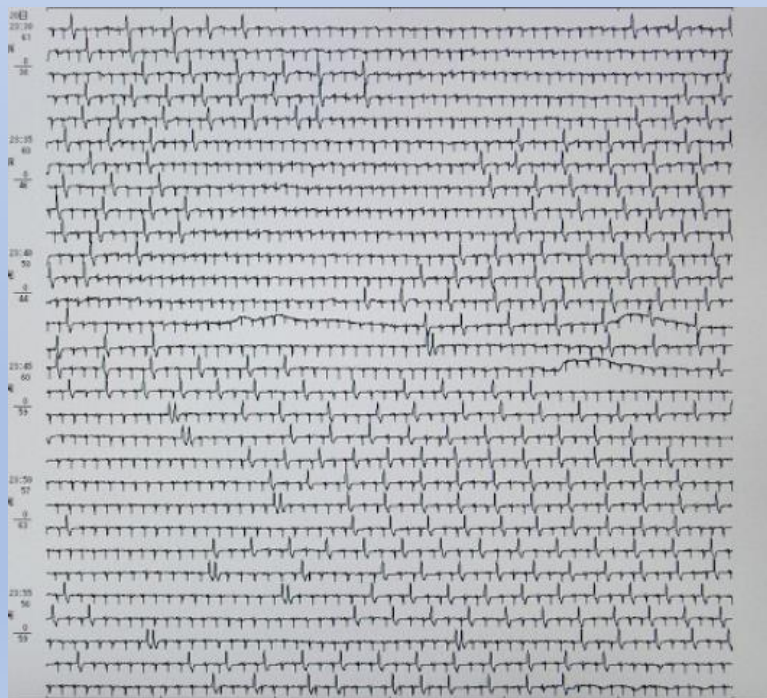
検査方法は、小型・軽量の心電図記録装置を身体に取り付け、24時間日常通りの生活をしていただきます。そこで記録された心電図を解析し観察します。図2にホルター心電図の一部を示しますが、動悸の原因である不整脈をとらえています。また、心臓自体を養っている血管（冠状動脈）が痙攣する冠攣縮性狭心症は、身体を動かすこととは無関係に、夜中や明け方に胸痛などの症状が多く見られます。病院などで受ける心電図検査や負荷心電図検査では短時間のため、症状が発症することが少ないのに対し、ホルター心電図では、実際の生活での心電図を長時間記録しているため、診断の役にたてることができます。

図1 ホルター記録器



ホルター記録器は、
手のひらにのる大きさです

図2 ホルター心電図の波形



ほんの1部分の心電図を示します。まる1日分の心電図を記録しているので、このような不整脈についてももしっかり記録しています。